

The logo for Sekisui, featuring the word "SEKISUI" in a bold, blue, sans-serif font. A small red dot is positioned above the letter "K".

SEKISUI

積水化学グループ中間報告書

2017

(2016年4月1日~2016年9月30日)

証券コード:4204

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。積水化学グループの2016年度上半期の連結業績につきまして、ご報告申し上げます。

中期経営計画「SHINKA!-Advance 2016」の最終年度となる2016年度上半期の連結業績は、売上高は円高による為替影響を受け前年同期比3.9%減の5,178億円となりましたが、営業利益は前年同期比14.2%増の436億円となり、当初計画を上回るとともに上半期の最高益を更新することができました。

上半期は、住宅カンパニーの新築住宅販売増や高機能プラスチックカンパニーの車輛・輸送分野を中心とする戦略分野の伸長、環境・ライフラインカンパニーの継続的な構造改革による効果発現などにより、3カンパニーともに増益を達成しました。

2016年度は、積水化学グループが次の成長に向けて飛躍する勝負の年であり、同時に、グループの次の成長ビジョンをしっかりと描き、その礎を築く年でもあります。そのためには、年度計画を着実に達成するとともに、「収益力強化」「協創・イノベーション」「フロンティア開拓」の成長戦略を推し進め、外部環境の変化に左右されない強固な事業体を創り出してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも厚いご支援を、引き続き、賜りますようお願い申し上げます。

2016年12月



代表取締役会長

根岸 修史

代表取締役社長

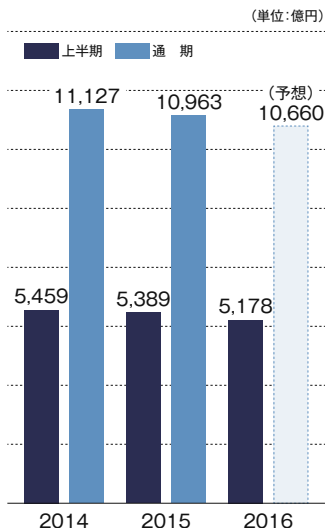
高下 貞二

積水化学グループ上半期決算のご報告

売上高

5,178億円
-3.9%

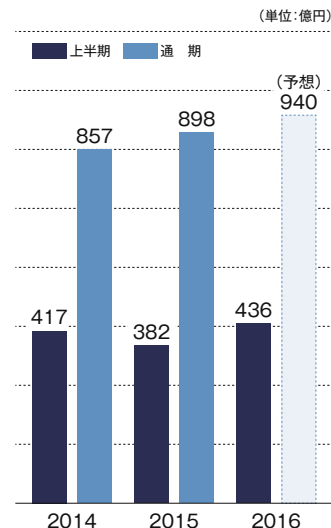
新築住宅は新商品を中心に売上が伸びたものの、円高や事業構造改革の影響により、3.9%減少しました。



営業利益

436億円
+14.2%

新築住宅の販売増に加え、海外における高機能品の販売拡大や収益改善施策の効果などにより、14.2%増加しました。

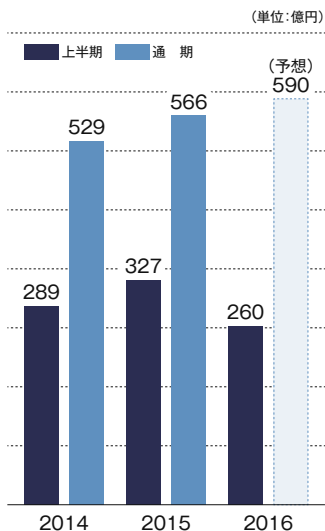


- 2 -

親会社株主に帰属する 四半期純利益

260億円
-20.5%

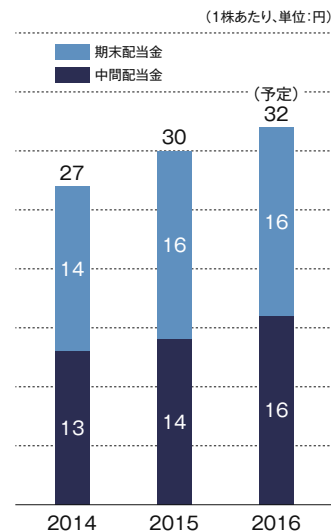
投資有価証券評価損や事業構造改革関連の費用などを計上したことなどにより、20.5%減少しました。



中間配当金

16円

2016年10月27日開催の取締役会において、前年度の中間配当金より2円増額となる1株につき16円とし、支払開始日を12月1日とさせていただきますことをご報告しました。



- 3 -

カンパニー別売上高・営業利益

売上高

(単位:億円)

	2016年度 上半期	2015年度 上半期	前年同期比 増減
住宅カンパニー	2,377	2,338	+38
環境・ライフラインカンパニー	1,120	1,074	+45
高機能プラスチックカンパニー	1,767	1,900	-133
その他	13	175	-162
消去又は全社	-98	-101	+2
合計	5,178	5,389	-210

営業利益

(単位:億円)

	2016年度 上半期	2015年度 上半期	前年同期比 増減
住宅カンパニー	171	162	+9
環境・ライフラインカンパニー	31	-8	+40
高機能プラスチックカンパニー	275	248	+26
その他	-38	-16	-22
消去又は全社	-3	-3	0
合計	436	382	+54

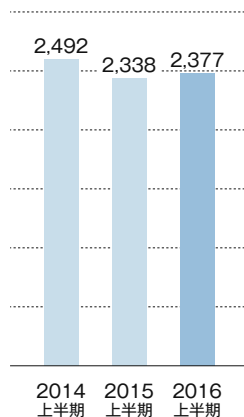
- 4 -

住宅カンパニー

Housing Company

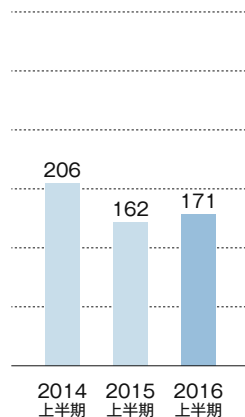
(単位:億円)

売上高の推移



(単位:億円)

営業利益の推移

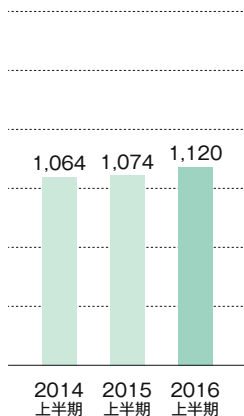


- 熊本地震の影響を受けたものの、前年度下半期からの新築受注の回復と生産工場の効率化により、増収増益となりました。
- 新築住宅事業は、新製品セキスイハイム「Gシリーズ」を中心に建替需要の取り込みを図るとともに、「スマートパワーステーション」シリーズにより太陽光発電システム・蓄電池・HEMS(ホーム・エネルギー・マネジメント・システム)の一体訴求を推進したことにより、受注棟数が増加しました。
- 住環境事業は、定期診断によるお客様との接点強化を図るとともに、新パッケージ商材「耐久・外装リフレッシュ」を中心に外装メニューの拡販に取り組み、売上・利益は前年度並みとなりました。

- 5 -

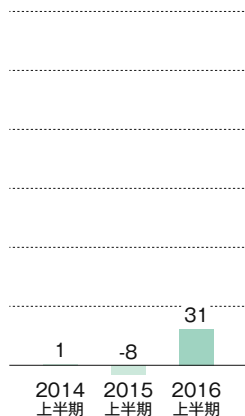
(単位:億円)

売上高の推移



(単位:億円)

営業利益の推移

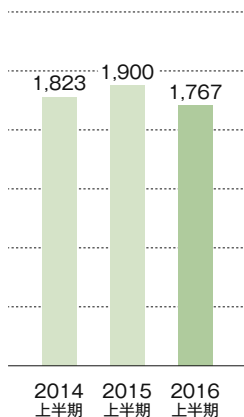


- 国内事業の収益性改善が進捗したことや海外事業構造改革の効果が発現したことにより、収益は大幅に改善し、最高益を更新しました。
- 国内事業は、「製造総原価方式」の導入や出荷標準化など収益改善を図ったことなどにより、増益となりました。
- 海外事業は、構造改革と円高の影響により売上は減少したものの、航空機向けプラスチックシート事業の米国新工場の本格稼働による販売増により、損益は大幅に改善しました。

- 6 -

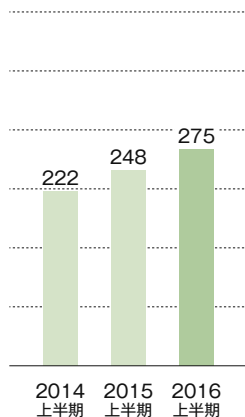
(単位:億円)

売上高の推移



(単位:億円)

営業利益の推移



- 円高の影響を受け減収となったものの、車輻・輸送分野、住インフラ分野、ライフサイエンス分野が順調に拡大し、最高益を更新しました。
- エレクトロニクス分野は、モバイル端末の生産調整の影響により、両面テープなどの販売が減少しました。
- 車輻・輸送分野は、円高の影響により売上は前年度を下回ったものの、欧米を中心に需要が安定的に推移したことなどにより、高機能品を中心に販売を伸ばしました。
- 住インフラ分野は、塩素化塩化ビニル樹脂や耐火材料の販売が堅調に推移しました。
- ライフサイエンス分野は、検査薬・検査機器の販売が国内外ともに順調に推移しました。

- 7 -

「見たくなる」「よく分かる」 セキスイハイム生産工場を実現

当社は、2014年度から全国8住宅生産工場の「魅力化推進計画」に取り組んでいます。本年6月に終了した佐賀県鳥栖市のセキスイハイム生産工場のリニューアル工事においては、生産能力向上を図るとともに多目的コミュニケーション棟を新設し、お客様への魅力発信の強化を図りました。



九州セキスイハイム工業の多目的コミュニケーション棟(佐賀県鳥栖市)

自動車のフロントガラス全面に表示できる 中間膜を開発

自動車のフロントガラス全面に文字や図の表示を可能にした合わせガラス用中間膜の技術を確認しました。この技術により、将来拡大が予想されるヘッドアップディスプレイの市場に対応するとともに、建築物のガラスなども含めた多用途展開を図ってまいります。



未利用エネルギー活用システム「エスロヒート 下水熱(管底設置型)」を新潟市が採用

「エスロヒート下水熱(管底設置型)」は、ヒートポンプなどを用いずに、下水から得られた熱だけで融雪する経済的なシステムです。このたび、新潟市中央区の道路融雪設備工事に初めて採用され、良好な融雪効果が確認されました。今後も、このシステムを通じて、環境に優しいまちづくりに貢献していきます。



「エスロヒート下水熱(管底設置型)」による融雪状況

- 8 -

第4回「SEKISUI環境ウィーク」を開催

当社は、2013年より「SEKISUI環境ウィーク」を定め、グループ全体でグローバルな環境貢献活動に取り組んでいます。本年は、米国・ニューヨークの外来植物駆除活動をシンボルイベントとして8月に開催し、社長をはじめとする経営幹部のほか、従業員とその家族をあわせ約100名が参加しました。



- 9 -

連結財務データ

連結貸借対照表の要旨

(単位:百万円)

	2016年度上半期末	2015年度末
流動資産	441,398	434,513
固定資産	469,275	501,530
資産合計	910,674	936,043

(単位:百万円)

	2016年度上半期末	2015年度末
流動負債	297,795	314,944
固定負債	86,128	76,942
負債合計	383,924	391,887
純資産合計	526,749	544,156
負債純資産合計	910,674	936,043

連結損益計算書の要旨

(単位:百万円)

	2016年度上半期	2015年度上半期
売上高	517,854	538,909
営業利益	43,653	38,238
経常利益	40,015	39,493
親会社株主に帰属する四半期純利益	26,073	32,792

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位:百万円)

	2016年度上半期	2015年度上半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	59,805	45,271
投資活動によるキャッシュ・フロー	-9,606	-15,202
財務活動によるキャッシュ・フロー	-24,589	-28,515

-10-

株式の状況 (2016年9月30日現在)

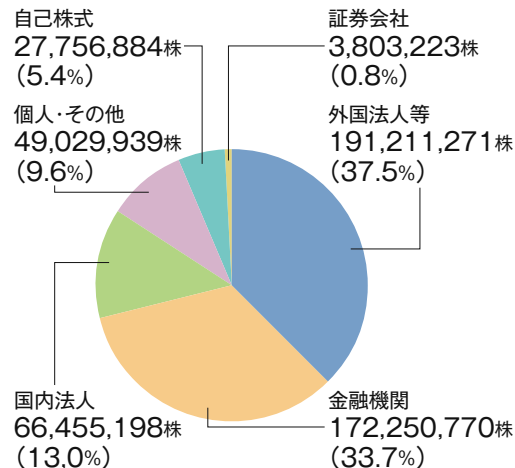
発行株式数および株主数

発行可能株式総数	発行済株式の総数	株主数
1,187,540,000株	510,507,285株	18,384名

大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
旭化成株式会社	28,039	5.80
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	25,832	5.35
第一生命保険株式会社	19,681	4.07
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	17,091	3.54
積水ハウス株式会社	11,998	2.48
東京海上日動火災保険株式会社	11,946	2.47
JP MORGAN CHASE BANK 385164	8,991	1.86
積水化学グループ従業員持株会	8,878	1.83
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505225	8,836	1.83
株式会社三菱東京UFJ銀行	7,618	1.57

株式の所有者別分布状況



(注)1.当社は、自己株式を27,756,884株保有していますが、上記大株主からは除いています。
2.持株比率は発行済株式の総数から自己株式数を控除して計算しています。

-11-

株主メモ

株式に関するお問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号

電話(通話料無料) **0120-094-777**

- 三菱UFJ信託銀行では、特別口座に記載された株式をお持ちの株主様のお手続きのみを取り扱うこととなりますので、ご注意ください。
- その他の株主様の各種お手続きは、口座を開設されているお取引先の証券会社等にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店で支払いいたします。

住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金の受取方法のご指定等のお申出について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行株式会社にお申出ください。

会社概要 (2016年9月30日現在)

積水化学工業株式会社 (Sekisui Chemical Co.,Ltd.)

創立: 1947年(昭和22年)3月3日
資本金: 1,000億237万5,657円
本社: 〒530-8565 大阪市北区西天満2丁目4番4号
グループ従業員数: 23,691名
ホームページ: <http://www.sekisui.co.jp/>
事業年度: 4月1日から翌年3月31日まで

取締役および監査役 (2016年9月30日現在)

代表取締役会長	根岸 修史	社外取締役	石塚 邦雄※
代表取締役社長	高下 貞二	社外取締役	加瀬 豊※
取締役	久保 肇	常勤監査役	後藤 高志
取締役	上ノ山智史	常勤監査役	濱部 祐一
取締役	関口 俊一	社外監査役	小澤 徹夫※
取締役	加藤 敬太	社外監査役	西 育良※
取締役	平居 義幸	社外監査役	鈴木 和幸※
取締役	竹友 博幸		

(注) ※印の5名は、東京証券取引所の定めに基づく独立役員。

-12-

積水化学グループ2017カレンダーのご案内

株主の皆様を対象に、積水化学グループ2017カレンダーを差しあげます。ご希望の方は、以下の要領にしたがってお申し込みください。

●お申し込み方法

同封いたしましたアンケートはがきに、必要事項をご記入のうえご返信ください。

●締め切り

2016年12月12日(月)到着分をもって締め切りとさせていただきます。
※お届けは12月下旬の予定です。



-13-

積水化学工業株式会社

株主様のお問い合わせはこちら

法務部総務グループ

電話:06-6365-4119

商品に関するお問い合わせはお客様相談室へ

(東京)電話:03-5521-0505

(大阪)電話:06-6365-4133

この報告書は以下のような環境配慮をして印刷・製本しています。

- ①製版工程では、使用後に廃材となるフィルムを使用しない、ダイレクト刷版「CTP(Computer to Plate)」を用いています。
- ②印刷工程では、VOC(揮発性有機化合物)の発生が少なく、生分解性や脱墨性に優れたインキを使用しています。